

高大連携 特別授業 (1/12)

1月12日(金)に、国際教養科2年生を対象とした高大連携特別授業が行われました。例年通り信州大学教育学部・小池浩子先生に来ていただき、異文化理解の授業を80分ほど実施していただきました。今回は、トランプのゲームを行うワークショップでした。同じゲームをグループごと少しずつ違うルールで行い、生徒はそれを知らされずに、2人ずつ入れ替えながら、ゲーム中は一切言葉を発してはいけないという約束の下、ゲームを繰り返し行いました。これは異文化をどう理解しどう対応するかにつながるワークショップで、生徒たちは相手にどう伝えたら良いか、自分はどう対応したら良いか迷いながらも異文化模擬体験を楽しんでいました。



【生徒の感想より】

- ・最初はトランプのゲームと異文化理解と何の関係があるのだろうと思っていました。私が思っていた以上に異文化を理解することは難しいんだなと思いました。身近なことから理解を深めていかなければならないと感じました。
- ・違うグループの人たちとゲームを進めていくのが、自分を取り残されているようで怖かった。
- ・ルールが違っていても、言葉が話せないからと言って、違いを主張せずにそのルールを受け入れてしまいがちな人が多いと思った。
- ・普段なら話せるので、ルールの違いを確認できるけれど、それもできなかったのが困りました。言葉が通じるって幸せなんだなあと改めて思いました。
- ・自分たちのテーブルで完成したルールの中に、他のルールに慣れてきた人が入って一緒にトランプをするというのは、当たり前だと思っている日本での生活に、違った文化の外国人が入ってきた時の自分のその人に対する態度と同じなんだと気づいた。
- ・他の人が違うと決めつけしないで、一度自分がどうなのか考えてからの言動になればいいと思いました。
- ・自分の心理状態など、今まで考えたこともなかったようなことに気づくことができ貴重な体験でした。
- ・会話禁止で意思疎通をはかるのは大変だったが、それこそが言葉の通じない外国人と会話をする事の難しさであるのだと痛感した。
- ・すぐに理解し合うことはゲームでさえ難しかったので、国と国となると、より時間もかかると思いますが、尊重し合うことの大切さを理解から行動に移していけたらより平和になっていくと思いました